

コリントの信徒への手紙一

コリントの信徒への手紙一は、賜物に富む一方で分裂した教会に応答し、共同体の対立、礼拝、身体に関わる倫理、復活、エルサレムへの献金を扱います。



解釈にもとづく再構成。協力者、家具、身ぶりは再構成です。白紙の巻物は、手紙の背景にある報告や書面での問いを示しますが、その言葉を作り出してはいません。

年代・確度：本文で確かめられる

紀元54～55年頃

パウロがエフェソで長く働いた期間のうち正確に何年かは、おおよその範囲にとどまります。

場所・確度：本文で確かめられる

エフェソ

パウロがエフェソで長く働いた期間のうち正確に何年かは、おおよその範囲にとどまります。

前後の出来事

- ① 紀元52年頃 パウロはケンクレアイから出航し、エフェソに短く立ち寄る。エルサレムへ上って教会に挨拶し、その後アンティオキアへ下る。
ケンクレアイ → エフェソ → カイサリア・マリティマ → エルサレム → アンティオキア・本文で確かめられる
- ② 紀元52／53年頃 第三回宣教旅行が始まり、パウロはガラテヤ地方とフリギアを巡って弟子たちを力づける。
アンティオキア → ガラテヤ地方 → フリギア・本文で確かめられる
- ③ 紀元52／53～55／56年頃 パウロはティラノの講堂で2年間教える。宣教はアジア州全域に広まり、魔術の書物が焼かれる。
エフェソ・本文で確かめられる
- ④ 紀元54／55年頃 パウロはコリントの信徒への手紙一を書く（アポロはエフェソでパウロと再び共にいたと見られる、一コリント 16章12節）。パウロ／アポロ／ケファをめぐるコリントの信徒の分裂に答え、植える者と水を注ぐ者の働きに對して、成長をもたらすのは神だという対比を示す。
エフェソ・本文で確かめられる
- ⑤ 紀元55／56年頃 パウロはコリントを苦悩に満ちた形で訪れ、厳しい手紙（現存しない）を送る。
エフェソ → コリント・推定される
- ⑥ 紀元55／56年頃 銀細工師たちがアルテミスをめぐる暴動を起こし、パウロはエフェソを去ってマケドニアへ向かう。
エフェソ・本文で確かめられる

本文から確かめられること

本文で確かめられる

コリントの信徒への手紙一は、賜物に富む一方で分裂した教会に応答し、共同体の対立、礼拝、身体に関わる倫理、復活、エルサレムへの献金を扱います。

受取人はコリントの教会であり、共に生きる中で、教師をめぐる対立する主張と身分をめぐる緊張を抱えた共同体です。

10分で紹介するための流れ

1. コリントの信徒への手紙一は、賜物に富む一方で分裂した教会に応答し、共同体の対立、礼拝、身体に関わる倫理、復活、エルサレムへの献金を扱います。
2. この手紙はエフェソの段階に属し、痛みを伴うコリントとの往復、マケドニアへの出発、コリントの信徒への手紙二の作成より前です。
3. エフェソ、西暦54～55年ごろは、そこにとどまるというパウロの計画と第三次旅行の状況によって強く支持されます。
4. エフェソを舞台としたまま、この手紙を西暦56年後半または57年初めに置く年表もあります。

一次資料

ローマの信徒への手紙からフィレモンへの手紙まで、『聖書 聖書協会共同訳』©2018日本聖書協会。引用本文には、本プロジェクトのCC BY 4.0ライセンスは適用されません。引用と利用の条件については、日本聖書協会の案内をご確認ください。

使徒言行録7～28章、『聖書 聖書協会共同訳』©2018日本聖書協会。引用本文には、本プロジェクトのCC BY 4.0ライセンスは適用されません。引用と利用の条件については、日本聖書協会の案内をご確認ください。

資料

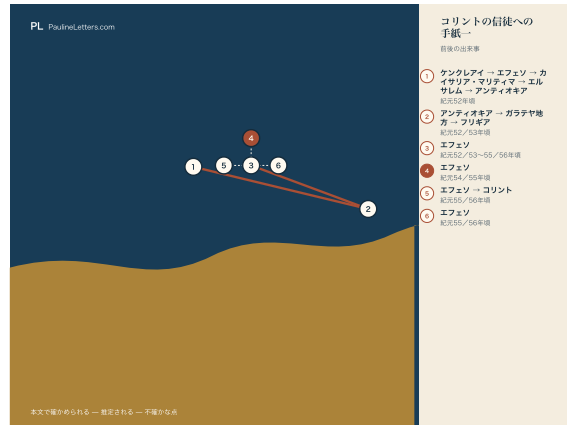
Raymond E. Brown, An Introduction to the New Testament (Doubleday, 1997). — 第22章「コリントの信徒への手紙一」：「メッセージの全体的分析」

この箇所は、関連する研究上の見解を概観します。

Jerome Murphy-O'Connor, Paul: A Critical Life (Oxford University Press, 1996). — 第1章「年代枠組み」：「パウロ書簡からの証拠」と「使徒言行録からの証拠」

この箇所は、ここでの結論を慎重に評価するための研究上の論点を示します。

聖書本文は含めず、参照箇所のみを記載しています。



考える別の読み方

エフェソを舞台としたまま、この手紙を西暦56年後半または57年初めに置く年表もあります。

話し合いのための問い

なぜこの手紙は書かれたのですか。

確かなことは何で、どこで慎重な読み方が分かりますか。